

「わかる日本語」 研究会を始めて1年

感想
と

意見
は

「わかる日本語」研究会は2010年8月、日本語ボランティア教室への調査を足掛かりに、同年11月“日本語ボランティア教室で日本語を母語としない人に行政情報を上手に伝える「わかる日本語」はどうしたら良いか”との考えからスタートしました。

毎月1回、日本語ボランティアを中心に日本語教育の専門家・行政窓口の方が10~12名出席し、11回を数えました。まず、Webから行政・国際交流協会や専門家・研究者等が取り組む「やさしい日本語」を取り上げ、次いで、Web上に公開している東京都国際交流委員会の「生活ガイド」から日本語原文を「わかる日本語」にする実践を行っています。

1 研究会に参加して

- 「やさしい日本語」への認識を高めた上で、実際に日本語(原文)を「わかる日本語」にリライトすることは勉強になる。

2 どのように「原文」を「わかる日本語」にするか

- 日本語原文と「わかる日本語」の関係はどう考えるか、「わかる日本語」にした場合、どうしても情報量が減り、情報が削除されてしまうことがある。
- 翻訳なのか、要約なのか、抜粋なのか、書き換え(リライト)なのか、それともオリジナル「わかる日本語」版と捉えるのか。
- 作成者の意図や思いがきちんと汲み取れているか。

3 語彙・文型と日本語レベル

(日本語レベルを日本語能力試験 N5 程度を参考にすることとしました。)

- 語彙も表現も限られ、一番難しいレベルに挑戦していると思う。
- 「やさしい日本語」として普及しているレベルはN4程度で、公文書を読んで理解してもらうには少なくともN4レベルなのか。

- 難しい語彙は説明をつける。
- 難しい語彙をやさしく言い換えると、かえってわかりにくくなる。
- 多少不自然な日本語表現もあるが、わかりやすさを優先する。
- 日本語教師の初級日本語に対する考え方が、書き換えの幅を狭めている可能性があり、生活者が身につけた生活日本語とはかけ離れている一面がある。
- 初級学習者にやさしく簡潔にリライトした文を提示したら、分かってもらえない箇所がたくさんあった。

4 これから

- リライトを通して「わかる日本語」の考え方やルールをまとめている段階。
- 現在のリライトは最後まで続け、全体の統一性、レイアウト、イラストなどを含め検討し、完成見本に仕上げる。
- これにリライトの考え方や作成基準(文型や語彙その他)を入れて、書き換えの手引きを作成する。
- 引き続き、医療、育児、教育などの分野での文書も加えることを検討してはどうか。

5 ボランティア活動の中で

- 行政側(公文書)は一般的な日本人さえわかりにくい。日本語ボランティアは今まで通りわかりやすく、要点のはっきりわかる日本語を使う方向に進んでいけば良い。
- 日本語ボランティア向けに研究会の成果を伝えることも重要。

6 行政への働きかけ

- 行政側への提言として、今後の情報提供時には外国人住民を情報弱者にしないために、読む人が理解出来るような文書を作成するべきという働きかけを行いたい。

7 生活日本語の学習から

- 日本に住むことになった外国人に、せめて3ヶ月間(50~100時間程度)、適切な日本語教材(?)と日本語教師による日本語学習を提供、その上で学習した構文を基準として文を作成する。

今後も研究会を続け、「わかる日本語・やさしい日本語」の普及に向けた検討を行います。ご意見・ご提案をお待ちします。

「音読みの法則」

金子 広幸 日本語教師（日本大学国際関係学部）

寄稿

2000年もの昔、漢字は日本に伝来しました。日本語は外来の漢字に「訓読み」を独自につけましたが、「音読み」は伝わった時の中国語の読み方を基に日本語風にアレンジして決められました。その後、中華の王朝の交代で漢字の音は変化し、また日本も発音の体系が変わったので、現在の日本語の音読みは中国語からはかけ離れてしまっています。しかし、日本人はよほど律儀なのでしょう、受け入れた時代・社会で異なる読み方を残し、それぞれが呉音・漢音・唐宋音などとなっていきました。その結果、一つの漢字に多くの音読みがあるという現象を生み出しました。

20数年もの昔、私は台北で暮らしていました。そのころの恥ずかしいお話をご紹介します。私は「金子」なので、中国語ではJinziとなるべきが、私の発音ではJin[G]ziに聞こえると言うのです。日本人にはどちらも「チンツー」と全く同じに聞こえるのですが、中国語では大違いなのです。それが若い私にどんなに恥ずかしいことだったか想像していただきましょう。「金」はJinですが、Jingは「精」なのです。初対面の女性にまで爆笑された記憶があります。

この経験は若かった私の目を開きました。中国語でJingと読む漢字を集めてみると、「京」「経」「敬」「井」「静」などで、これを日本語の音読みにしてみると、すべて振り仮名の最後のひらがなが「一い」か「一う」でした。さらに深く見ると、ここに挙げた漢字には「呉音」と「漢音」の両方があって、「京」「経」「敬」は「きょう」「けい」の両方の音読みを持っています。「愛嬌」は昔「愛敬」と書きましたし、「市井の人」と「天井」や「静寂」「静脈」の読み方を見てもそれが分かります。ちなみにJinと読む漢字は「今」「筋」「近」「進」などで、これらの音読みは「一ん」で終わります。

私はこれを「音読みの法則」と呼ぶことにしました。その後、試験ではもちろん、会話の場面でも間違っ

ことは一度もありません。もちろん笑われることもなくなりました。

帰国後のあるとき、日本語クラスの中国人の学生が「ワープロが壊れている」と言って相談にきました。「旅行」と打ちたかったのに、画面には「良好」と出ると言うのです。彼は間違いに気付くと恥ずかしそうにこう言いました。「違いは分かるけど、どうしても覚えられない」と。その時、「音読みの法則」が閃き彼に説きました。『「G」があったら「一い」か「一う」で終わるよ』と。中国語なら「旅」はLüで、「良」はLiang、音読み「一う」がついているのは「良」のほうです。

そこから、私の音読みの旅が始まりました。調べてみると、現代中国語と日本語の漢字の音には、実はもっと多くの対照関係があることが分かりました。さらに、幸運なことに台湾にいたので、台湾語（閩南語）、客家語、広東語などの中国語の方言の音との比較もできました。古い時代に中華を離れて日本に来た漢字の読み方は、それらの方言ともよく似ていることも分かりました。それだけでなく、「音読みの法則」は、ベトナム語や韓国語の漢字語の音にも通用することも分かったのです。先行研究では、広東語などとの対照が1970年代からあって模索が行われていることも分かりました。いつか私はこの「音読みの法則」を教学に応用できるか考えて、効果があるなら教室活動で試してみたいと考えています。

はるか昔、アジアの文化圏の間では、中華文明を囲んで交流していた人々がいました。その時代に思いを馳せると、彼らがお互いを信頼しあって得た成果が、何千年経った今でも尊ばれ受け継がれてきたことがわかります。そこには、「熱心に学ぶ人々」がいて、そして、これをお読みのみなさんのように「学ぶものを支える人々」もいたに違いありません。



講演会

第20回 全国ボランティアフェスティバルが開かれる!

去る11月12日(土)全国ボランティアフェスティバルが開かれました。東京日本語ボランティア・ネットワークは「大地震!その時、仙台の外国人は?」をテーマに、①仙台における被災外国人の状況、②震災時、震災後の情報発信、「多言語」と「やさしい日本語」③災害時、『日本語ボランティアは外国人のために何ができるか?』を内容とした分科会を担当、講師に(財)仙台国際交流協会の須藤伸子さんをお招きしました。(参加者30名)以下は講演要旨です。

大震災・支援活動

3/11東日本大震災は、大地震と余震、沿岸部を襲った巨大津波(死者のほとんどを占める)により、仙台市でも住宅が崩壊、ライフライン、交通機関(網)が遮断し、死者(含、行方不明)700人以上、建物の全壊・半壊など156,000棟以上(2011.9/2現在)の被害を受けました。私も地震後3日間は東北の実家と連絡が取れない状態にありました。

仙台市の在住外国人は約1万人、市人口の1%弱で中国、韓国籍が7割とアジア出身者で留学生など学校関係者が多く流動性があります。仙台市では地震、水害などの大規模災害時には、言葉や習慣の違いから情報を入手しにくく、支援を得られない外国人支援のため、市の災害多言語支援センターを仙台国際交流協会が市民ボランティアや関係機関と協力しながら運営するようになっていました。

仙台市や関係機関からの災害情報を翻訳し、多言語による情報提供(内容は、被災情報、支援情報、ライフライン、交通、原発関連、医療等)をブログ、メル

マガ、ラジオ、HP等、考えられるものは全て実施し、TEL、来館、Eメール等による多言語相談や避難所巡回を行ないました。巡回では、英語、中国語、韓国語のスタッフが数名でチームをつくり、タクシーや自転車で外国人避難者がいる場所を回りました。メディアや大使館対応などについても行いましたが、日本人からの問い合わせも多くありました。

東日本大震災後、4/30まで活動しました。当初の1週間は24時間体制で英語、中国語、韓国語、やさしい日本語等で情報提供を行ないましたが、「やさしい日本語」での情報提供は、スタッフ間で一定のルールと共通理解がないと難しさがあることが分かりました。

外国人被災者アンケートから

これらの活動の後、外国人被災者からのアンケート調査を実施(2011/5~10月)しました。被災時、頼れる人の存在の人がいたと答えた人は236人、その内訳(複数回答可)は、知人・友人174人、先生51人、近所の人46人、家族・親族45人、その他21人でした。(いなかった人は30人)また、自由な意見の記入については、●地震、津波が怖かった●生きていることに感謝 ●非常用の連絡システムが必要 ●日本社会と日

本人に感心 ●原発事故が心配、等の感想が寄せられ、また地震の後帰国した人は191人で、理由は ●母国で心配 ●原発事故が心配 ●母国政府の勧め等でした。とくに、日本政府の情報とネットによる母国情報との違いが大きな不安要因となっていました。

意見交換のコメント

原発事故の問い合わせは今でも多いですが、日々の生活のなかに隠れてきているようです。日本人と結婚した人でも帰国した人、帰国を咎められた人、失職や離婚をした人等、深刻な問題が多くあります。支援活動をする際はキーパーソンが必要です。震災が起きてからを見つけるのは難しく、日頃から通訳ボランティアやIT力のある人、人的ネットワークのある人が必要です。東京では日本語教室はあまり頼りにされなかったとの話もありますが、外国人とのコミュニケーション力には心強いものがあります。日常的個人的繋がりが大切です。情報が遮断された時の不安感の特徴としては、パニック状況の現出が多くありました。※以上が講演内容です。外国人との共生をめざした日頃からの活動の積み重ねの大切さを再認識した講演会でした。(文責:岩佐幹彦)



原発が心配 避難所で



停電のなかで支援



日本には、世界の各地(各国)から外国人が集まってきています。その経緯や経過は様々ですが、集まった外国人は、時に自国民同士が中心になり、一定の地域でコミュニティを形作っていることがあります。

古くは、中国人の横浜中華街、近年ではブラジル人の群馬県大泉、近頃では東京新宿区の新大久保、大久保、百人町周辺に広がるコリアン・タウンと呼ばれる街があります。

韓流ブームに乗って、今では女性たちの憧れの町として大いに賑わいを見せているようです。私達の教室でも折りに触れ話題に上がります。編集スタッフは「百聞は一見に如かず」とコリアン・タウンの見学に出かけました。

JR新大久保駅に降り立つと、駅前には沢山の待ち合わせの人達で混雑していました。歩き始めると、すぐに日本語学校や韓国語教室、韓国料理のお店などが連なっています。

屋台村もあり、リトルソウルのようにもありません。料理店はお昼時のせいか満員のお客です。立ち並んで外で待つ人もいます。料理としてよく知られている海鮮チヂミ、トッポギ、のり巻き、ビビンバなどが看板に大きく書かれ食欲をそそられます。辛いものが好まれるのか、唐辛子やニンニクを使ったものが多くみられます。幾つもの中通りがあり韓国名の看板が並び、大きく目立ち、本国もこのようなのか思うと楽しくなります。

☀️ 韓流スター ☀️

当世大人気の韓国アイドルたちのプロマイドやドラマの音楽やCDなど、公式グッ

探訪記 コリアン タウン



ズのお店も連なり、中に入ると大きなポスターと、アイドルの名前や顔がプリントされている小物類が沢山並べられています。カラフルで手にとって見るだけでも楽しいです。歌やドラマをテレビで、毎日どこかのチャンネルで見ることが出来るので、より身近に感じることができます。

韓国市場にも行ってみました。食材が何でも揃っていて、大きく分けられています。

豚の足、耳、鼻などが置いてあってびっくりしました、香辛料も真っ赤なものばかりで、見ただけでヒリヒリしそうです。韓国海苔やラーメン、キムチ、お酒のマッコリなど、よくお土産にいただくものもありましたが、今日は何をお土産にしたらよいのか迷います。

☀️ 女性の憧れ ☀️

女性の美しさには定評のある韓国だけに、チマ・チョゴリの衣裳をはじめ韓国エステやコスメティックの店も多く、かたつむりクリーム、睡眠クリーム、BBクリームなど、興味をひく商品がいっぱいあり、美しくなりたい願望はどの国も同じだと思います。

☀️ 休憩はこちらで ☀️

コリアン・タウンと呼称される前の百人

町は、音楽の町、楽器の町として発展した時期もありましたが、衰退し、大久保、新大久保とともに第2次大戦後、この地に朝鮮半島の人たちが住み始め、食料などの販売店を出し大きく発展したようです。

喧騒な店通りから通路を一步外れると、小泉八雲記念公園があります。「耳なし芳一」などで知られた小泉八雲の石碑があり、この地で生涯を終えたとのレリーフがありました。ギリシャで生まれ島根の松江で過ごしたことは知っていましたが、大久保に住んでいたことは、知りませんでした。

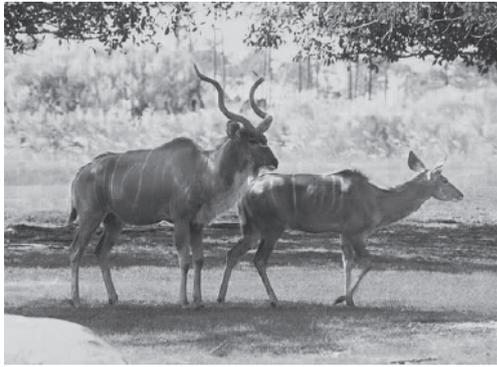
コリアン・タウンと呼ばれている地域は、日本の各地に存在するようですが、この地域はかつて、日本社会から疎外され、孤立したかのような生活の様子が消え、今では観光地のように紹介され、観光バスで観光客が降り立ち、若い女の人達で賑わい、他にはみられない町歩きの楽しさをよく現しているのが、この地域の特徴であるように思われました。

(大木千冬 記)

わたしの国ナイジェリア

プロスパー・エネモー / ナイジェリア

江戸川平井にほんごサークル（江戸川区）



こんにちは。私はプロスパー・エネモーです。西アフリカのナイジェリアという国から来ました。ナ

イジェリアの大学では生物学を専攻していましたが、日本で仕事を探すため来日しました。

ナイジェリアは人口約 1 億 5 千万と日本とほぼ同じ規模の国です。雨季と乾季の 2 つの季節があり、北部にはサハラ砂漠や岩山やサバンナ、南部には林や海、湿地があります。ナイジェリアの国名は、ナイジェリアに流れる 2 つの大きな川のうちのひとつ、ニジェール川に由来しています。これらの川にはいくつかの主要なダムがあり、それらはナイジェリアの主な電力源となっています。

ナイジェリアは石炭や鉄鉱石、花崗岩などの多くの天然資源やココア、ゴム、ヤシ油などの換金作物に恵まれた国であり、世界でも上位 20 位に入る石油産出国です。ただし、残念ながら政治はあまり上手くありません。

日本に来て以来、私は日本の文化と人々が単一であることに魅了されています。

ナイジェリアは日本と異なり、文化が多様で多数の言語があります。主な言語はイボ、ハウサ、ヨルバの 3 種類ですが、ナイジェリアは英国の植民地であったため、国民は皆基本的に英語が話せます。

信仰されている宗教は主にキリスト教とイスラム教で、キリスト教が 49 %（南部が中心）、イスラム教が 48 %（北部が中心）その他が 3 % の構成割合となっています。

国の祝日には 10 月 1 日の独立記念日やメーデー、子どもの日、また宗教的な祝日である復活祭やクリスマス、イスラム休日などがあります。

ナイジェリアのお祭りには、東部南部の穀物の収穫期の到来を祝うヤムフェスティバルや西部の部族の支配者オバや神々を祭るイヨフェスティバル、北部のシャロと呼ばれる成年を祝う祭りなどがあります。

最も盛んなスポーツはサッカーです。ナイジェ

リア人は皆サッカーが大好きでナイジェリアのサッカーチームはアフリカで一番です。

ナイジェリアにはそれぞれの部族に異なった料理がありますが、共通しているのは、米、トウモロコシ、キャッサバ、豆、ヤムイモです。

私が日本に来る際、最初に気になったのは、寿司など生ものを食べることでした。なぜなら、ナイジェリアではよく火を通して調理したものしか食べないからです。しかし驚いたことに、寿司はそんなに悪い味ではありませんでした。実際、私は段々と寿司が好きになっています。

日本に来る時のもうひとつの心配は地震でした。来日するまで私は地面が揺れるという経験をしたことがなかったので、あの 3 月の地震はとても恐ろしく、日本に来てよかったものかと自問するほどでした。

私はまだ日本語でうまく会話できないため、まだ正式な就職はしていません。時々短期のアルバイトをして生計をたてています。

江戸川平井にほんごサークルのおかげで、私の日本語のボキャブラリーは毎週増えています。最近サークルで野田市にあるキッコーマンしょうゆ工場の見学を楽しみました。江戸川平井にほんごサークルのボランティアの先生達は素晴らしく温かい人達です。ありがとう。

（原文・英語）



■地域に根ざした活動

日本語ボランティア「めいめい」(足立区)

代表 松岡 栄子

私たちの日本語ボランティア「めいめい」が誕生したのは、2008年5月で、4年半が経過しました。

日暮里舎人スカイライナーの舎人駅からすぐ近くの舎人地域学習センターで、毎週月曜日午後、楽しく日本語を学んでいます。舎人駅近くに舎人公園や西新井大師などがあり、環境の良いところです。

めいめい教室では、20人前後がメンバーで、常時10名前後のメンバーが、外国人の方々と日本語をツールにお互いの文化を学び合っています。活動回数は、160回を超えました。

教室の特徴として、年一回公開教室を行っています。今年は、第4回公開教室を9月19日に開催しました。

今回は、特に震災復興の願いを込めて

開催、私たちもボランティア精神の重要性を再認識する機会にもなりました。

毎回、百名程度地元の皆様のご参加を頂いておりますが、当日、めいめい新聞(不定期ですが、活動内容を載せた物で、足立区長・町会長を始め、地域の皆さんに読んでいただいております。)を配布し、その売上げを震災募金として、足立区を通し日本赤十字社に全額寄付致しました。

その他の活動は、正月には、書き初め、課外活動で、能楽堂、俳句と花見、浴衣の着付けと七夕会、区内の小学校への授業協力と給食試食参加、江戸博物館・造幣局の見学および年末お楽しみ会など楽しく活動しています。

さらに本年より、舎人センターと協力して、外国人の方を講師に中国語講座を開催し、外国人の方の自立と、地域の方との



交流を深める企画を始めました。

教室に見学に来る方々も多く、学習院大学・高崎経済大学の学生さんや、足立日本語教室の先生などと楽しい出会いを持っています。

私たちは、お互いの文化を共有しあいながら日本語を楽しく学ぶことをモットーに、地域の皆様と外国人の方々とのよき懸け橋になれるように、今後とも活動を拡大、努力してまいります。

会員団体紹介

Nice to Meet You

皆様はじめまして。今年7月から会員になりました日本語ボランティア「たけのつか」です。よろしくお願ひ致します。

昨年の11月より足立区の竹の塚学習センターで日本語教室を運営しています。

私たちボランティアスタッフは、昨年の足立区主催の日本語ボランティア養成講座の修了生です。足立区には日本語教室が、すでに17教室ありましたが、竹の塚に



■共感と共有を大切に

日本語ボランティア「たけのつか」

(足立区)

桑田 格子

は日本語教室が無かったため、この地域で活動を始めました。そんな訳で教室名もシンプルに「たけのつか」です。経験も浅い若輩者ゆえ試行錯誤の連続です。

足立区は外国人登録者数が23区では3番目に多く、22年度の統計では2万3千人を超えています(大震災以後は不明です)。家賃が安くて住みやすいからでしょうか。

教室は、金曜日の午後2時から4時までです。すぐ近くに日本語学校があるので、午前中の授業を終えた学生さんが立ち寄ってくれます。平日の昼なので主婦の学習者が多いのも特徴です。

学習は基本的に1対1で、学習



者のニーズに合わせて対応しています。スタッフも女性が多いので、おしゃべりに花が咲いてにぎやかです。中国、韓国から来日した学習者が殆どです。

私たちのモットーは「楽しく無理なく気持ち良く」です。スタッフが楽しくなかったら、学習者も楽しくないです。そのためには、相手への敬意が基本だと思っています。学習者もスタッフも「来て良かった!」と笑顔で帰れるような活動を続けられるように、共に学んでいきたいと思っています。

一年半、日本で暮らして

ダニカ・アン・大田 / フィリピン
日本語ぐるりっと (大田区)

日本語ボランティアの現場から

私は、去年の三月に母のいる日本に来ました。

日本に来たばかりのころは、言葉や生活のルールが分からなくて不安でした。そして、とても寂しかったです。昼は、いつも家に一人でした。

フィリピン人の友だちができましたが、彼女はとても忙しくて時間がありませんでした。フィリピンでは、たくさん友だちがいました。大好きなおじさん、おばさんもいました。

日本語では、自分の気持ちを伝えられません。何かをする時、日本語の説明が分からなくて、やり方を間違えると怒られました。

フィリピンにいたら、こんな難しい生活をしながらでも良かったのに……。

七月になって、フィリピンにいる友だちがカレッジに入ったと聞いて、帰りたいという気持ちももっと強くなりました。

半年経って、日本語教室で勉強を始めました。そこで、日本の高校に入れる可能性があるかと聞きました。私は、将来のことを考えたら、日本に住んだ方がいいと思うようになりました。

私は、以前より日本のことが理解できるようになっていました。日本に来る前、日本は怖い国だ、日本人は自分のことしか考えていないと思っていましたが、実際話したら、そうではありませんでした。

地震や台風の時も、力を合わせて頑張っていました。駅の前で、たくさんの方が募金活動をしているのを見て、日本は偉大な国だと思うようになりました。

今の目標は、高校に入ることです。もっと日本語で話をして、友だちを作って、日本の女の子と同じ生活がしたいです。

高校に合格することは簡単ではありません。

難しい漢字を千字以上勉強しなければなりませんから。でも、頑張ろうと決めました。皆さん、応援してください!



2011年9月「大田区日本語でスピーチ」に出場した時の写真です

ボランティアの声

小島 美代子 / 日本語ぐるりっと (大田区)
VIVAぐるりっ!

“日本語ぐるりっと”という少し変わった名称は、支援対象の子どもたちをとりまく環境＝家庭、学校、地域、行政＝連携し、様々な立場の人たちが協力してよりよい支援を行っているという考えから名付けたものです。1998年に教材研究・開発のための勉強会を作り、1999年に「学校生活にほんごワークブック」を出版、2002年から大田区山王会館で教室を始めました。主な活動は、週3回(月・水・金)の教室での支援で、これまで、在籍期間はまちまちですが200人近い子どもたちが通ってきました。他に、大田区教育委員会の「外国人、帰国児童生徒日本語特別指導」に関わったり、今年からは「虹の架け橋教室」にも参加するなど幅広く活動しています。

私たちが目指しているのは、初期指導→生活適応指導→教科学習指導を一貫して行うことで、特に初期指導は集中的に行って、できるだけ早く学校生活に適応し、教科学習に自発的に取り組んでいけるよう支援したいと思っています。日常生活に支障はなくなっても、授業を理解するまでには相当な時間

と努力が必要です。年齢が上がっていくほど教科学習への対応が難しくなります。特に中学3年生の高校受験をどう支援するかは、頭を悩ませるところです。

日々試行錯誤で苦勞も多いのですが、毎年春に行っているお花見を兼ねての同窓会が楽しみの一つになっています。“ぐるりっと”を卒業していった子どもたちに再会する時…、成長した姿に驚いたり、頼もしさを感じたり、感動を味わえるひと時です。メンバー一同(実動10数名)、子どもたちからエネルギーをもらって頑張っています。



◎ TNVN の運営委員会 (第2回) から

運営委員会の日は今年最低の気温で冷たい雨が降っていました。

運営委員は仕事の合間に融通をつけて出席された方々とTNVNのスタッフの皆さん、合わせて11名です。11月11日の開催で11が3つ揃いました。場所はいつもの東京ボランティア市民活動センターのロビーです。少し遅れて午後6時10分に始まり午後8時30分まで、話は尽きませんでした。

第1回(7月8日)以降の活動状況と意見交換をしました。

定常業務では毎週金曜日に開いている事務局の様子。“相談に来られる方も減っていきましたね。その代わりにTNVNホームページ「日本語ボランティア教室ガイド」から各教室への学習問い合わせは依然多く、またボランティア希望の問い

合わせも多い。その役割を果たしていますよ”

3ヶ月に1回定期的にNetwork Newsを発行しています。“評判が良く、楽しく読んでいただいています”“今回「新大久保探訪記」を載せますが「探訪記」のシリーズはどうですか。ボランティアの関心はどこに!?”

「わかる日本語」研究会の実施概要を整理し報告しました。大半の運営委員が参加されています。“今後の進め方は研究会で検討しましょう”

意見交換会では“文化庁の日本語コーディネーター研修会の募集がありました。でも開催の目的は…よく分からない”“難民支援は難しい課題が多いです”“都立高校の外国籍生徒受入枠は少しずつ改善されているが…”などなど

“TNVNは今後もこのペースで活動を進めていきましょう!!” (K.K)



TNVN 東京日本語ボランティアネットワークはボランティア日本語学習支援活動を行っている団体のネットワークです。TNVNの会員はそれぞれ地域での日本語学習支援活動を通し、言葉のため日常生活に不自由を感じている外国人などを、隣人として支援しています。TNVNは会員への情報提供・会員相互の情報交換、および外部との情報発信を行い、活動の活性化を図ります。

東京日本語ボランティア・ネットワーク事務局の活動

◆日時：毎週金曜日

- 第1、第3 金曜日／午後2時～4時
- 第2、第4 金曜日／午後2時～6時
- 第5 金曜日／休み

◆場所

東京ボランティア・市民活動センター
JR、地下鉄(東西線・有楽町線・南北線・大江戸線—出口B2b) 飯田橋駅下車
セントラルプラザビル 10F ロビー

◆日本語ボランティア相談窓口

日本語ボランティアの活動についてのご相談・ご質問にベテランスタッフがお応えしています。電話でご確認の上、気軽にお越し下さい。また、メールでのお問い合わせにもお応えしています。

ご意見もお待ちしています。

〒162-0823 東京都新宿区神楽河岸 1-1
東京ボランティア・市民活動センター
メールボックス No.4

●TEL：03-3235-1171

(呼出：金曜日活動時間帯のみ)

●FAX：03-3235-0050

●E-mail：webadmin@tnvn.jp

●URL：http://www.tnvn.jp/

●郵便局払込

口座番号：00100-1-719259

加入者名：東京日本語ボランティア・ネットワーク

●会員数(2011年11月12日現在)

正会員：88団体、団体協力会員：2団体

個人協力会員：26名、賛助会員：4団体

●編集／岩佐 幹彦、大木 千冬

岡田 美奈子、小川 伶子、梶村 勝利

床呂 英一、林川 玲子、福井芳野

●レイアウト／鶴田 環恵

◎災害時対応に見直しを

東京都生活文化局の主催で「在住外国人支援のための合同連絡会議」が11月15日(東京都部(3ブロック)と16日(東京都区部(7ブロック))に開催。参加者は区市町村国際交流主管課、外国人支援団体、日本語学校、インターナショナルスクール、都内在住・在勤・在学の外国人キーパーソン等。

16日は新宿・飯田橋で参加者70数名、全体会議のあと7グループに分かれ討議。

テーマは「東日本大震災を踏まえた外国人への情報提供について」

内容は「災害発生後の問い合わせ・対応、外国人への情報提供・対応の際の問題、そして災害時に外国人が必要とする情報をどのように提供するか、今後、ブロック内で協力は」

約2時間の討議後、グループ別の発表。

その中から

発生直後からの電話・交通の遮断で自分の知りたい情報・確認ができず混乱／「災害時対応マニュアル」を生かして行動をとって無事学生・生徒を帰宅させた学校／行政情報をホームページ外国語版で発信しているが緊急時での対応が不十分で見直しが必要／外国大使館からの指示・通達で帰国した人達／情報不足からくる海外での過剰対応／春休み時期で学校での安否確認に多くの日数、行政の人事異動で引き継ぎが不備・問題／同国人の連携・ネットワーク、日常的に集まりが出来る場所／TV放送で定期的にも多国語の放送／語学ボランティアの対応強化／ITに縁のない人への情報提供／「やさしい日本語」の必要性／etc. 多数意見。

(K.K)

Column

❖ いつ来たっていいたて!

去年の3月、銀座線浅草駅で、制服姿の4、5人の中学生と乗り合わせました。きゃっきゃとじゃれあっている彼らに「どこから来たの」と声をかけると「福島がいいたて村から」との返事。「福島は広いけど、どのあたり」と更に尋ねると、一人の中学生が鞆からカラーのパンフレットを取り出して、くれました。それは『いつ来たっていいたて!』という飯館村役場が作成した観光ガイドでした。全員がパンフを持っていたようです。「俺も渡したかったな」という雰囲気です。

た。新緑か紅葉の時期に訪れたら楽しそうな村だなと思いつつ、昨年に行けませんでした。

2011年3月の大震災で、原発から40キロメートル離れている飯館村は、風に乗った高濃度の放射性物質に汚染されてしまい、村全体が計画的避難地域に指定されました。あの中学生たちは、今3年生だろうと思います。今頃どこでどうしているだろうかと、飯館村の菅野村長が著した「美しい村に放射能が降った」という新書を読みながら、案じています。(O.M)